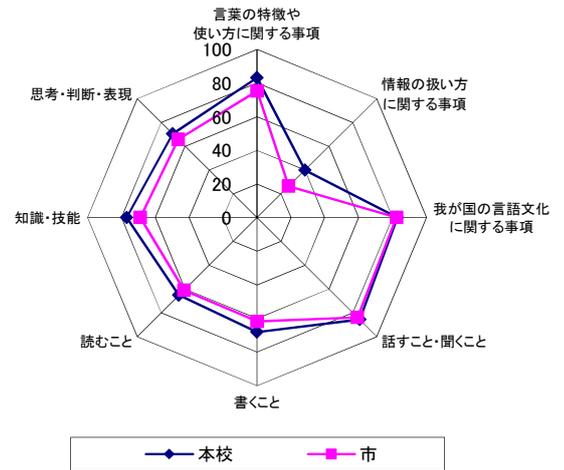


# 宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

領域別	事項	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	40.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.7	83.9	84.2
	書くこと	68.1	61.7	64.5
	読むこと	65.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	76.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	70.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

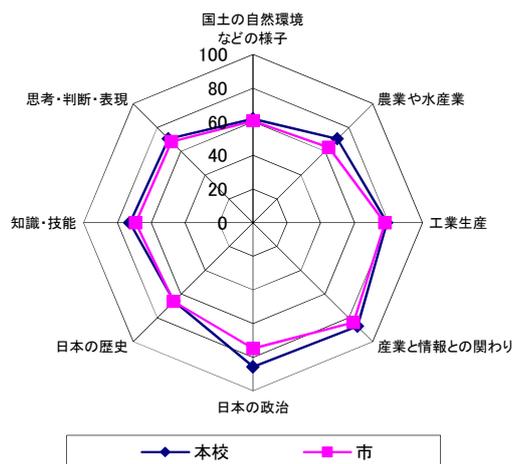
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率は、市と比べると7.8ポイント高かった。</p> <p>○敬語や、文と文との接続の関係を理解する問題、熟語の成り立ちについて答える問題において、市や全国の平均正答率を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●5年生の漢字を正しく書く問題については市の平均正答率をほぼ上回っているが、下回った漢字もあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の漢字を使って文を書くなど、漢字に触れ、使う機会を増やしていく。</li> <li>今後も国語で習った言葉や敬語などを日常生活と結び付けて積極的に使えるようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率は、市と比べると13.5ポイント高かった。</p> <p>○報告文から情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書く問題については、市の平均より20ポイント近く上回っている。</p> <p>●説明文から読み取る問題では、正しく情報を得て文章に表すところに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文や物語文を読むときには、文の中から正しい情報を得てまとめる時間を意図的に作るようにする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は、市の値と比べてやや高かった。</p> <p>○和語、漢語、外来語について答える問題の正答率は、市の正答率をやや上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句の由来に関心をもち、漢字の成り立ちを調べるなど、我が国の言語文化について親しめるような学習を通して意欲をさらに高めていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>正答率は、市と比べてやや高かった。</p> <p>○インタビューの内容を聞き取り、意図に応じて、質問の工夫を捉える問題では、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●インタビューを聞き取り、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率をやや下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、自分の立場を明確にして話す、自分の意見との違いを考えて聞くなど、論点を整理して話したり聞いたりする学習をさらに続けていく。</li> <li>国語の学習の中での話し合いの場面では、相手が何について話しているのか、話題の中心を念頭に置いて聞くことを重視していく。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は、市と比べると6.4ポイント高かった。</p> <p>○報告文を読み、どのような工夫がされているかを答える設問では、平均正答率が市より10.4ポイント高い。報告文の書き方に関する知識が定着している様子が見える。</p> <p>●話し合いの場面を想定し、出た案に対して、自分の意見を理由とともに述べられた児童の割合は、市より4.3ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見と理由を答える問題では、意見は書けたが理由が書けなかった児童や、無回答の児童が多かった。教科を問わず、理由とともに意見を伝える機会を意図的に多く作ることで、表現に慣れさせる。</li> <li>国語の授業を中心に、理由を述べる際の話型や文型を確認することで、基本的な言葉遣いを身に付けさせる。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は、市と比べると4.3ポイント高かった。</p> <p>○説明文を読み、文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりする問題では、市の平均正答率を10ポイント程度上回った。</p> <p>●物語を読み、描写をもとに登場人物の心情を捉える問題では、市の平均正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>描写を基に、場面ごとの登場人物の心情と様子を捉えながら物語を読む活動を通して、物語の人物像を捉えられるようにする。</li> <li>今後も、説明文を読む際は、複数の段落を関連付けて読み、情報を総合して内容を捉えることができるように読むようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.7	60.5	65.8
	農業や水産業	70.5	63.3	66.0
	工業生産	79.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	87.1	83.8	76.6
	日本の政治	85.7	74.9	74.1
	日本の歴史	66.1	66.3	68.3
観点別	知識・技能	72.7	69.3	71.4
	思考・判断・表現	70.6	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

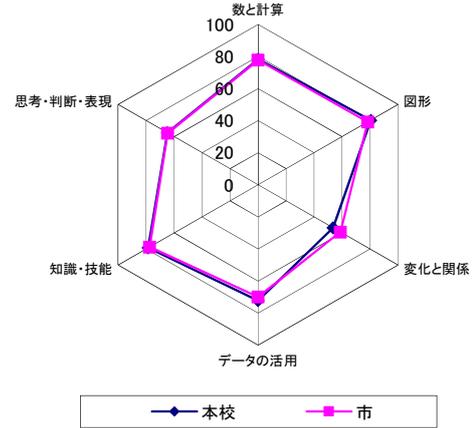
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>正答率は市の正答率より高い。</p> <p>○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題では、市の平均正答率を1.7ポイント上回っている。</p> <p>●日本の周辺の海洋名を答える問題では、市の平均正答率を8.6ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節風が吹く仕組みを地形と関連付けながら確認することで、理解を深める。</li> <li>・日本周辺や世界の主な海洋名について、位置と名称を関連付けながら覚えらるるようになりドリルやクイズなどを用いたりして楽しみながら習熟を図ることができるようにする。</li> </ul>
農業や水産業	<p>正答率は、市の正答率より高い。</p> <p>○食料の輸入量が増えることの問題点について考える問題では、市の平均正答率を15.7ポイント上回っている。</p> <p>●日本の主な食料の自給率に関する問題では、市の平均正答率を上回っているものの40.0%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科など他教科とも関連させながら、日本の食料自給率に対する関心を高める。</li> <li>・日本の食料問題について調べて分かったことを自分の言葉でまとめる機会を設けることで、外国との関わりにおける課題の理解を深める。</li> </ul>
工業生産	<p>正答率は、市の正答率より高い。</p> <p>○自動車の部品を再利用する目的について考える問題では、市の平均正答率を1.7ポイント上回っている。</p> <p>●日本の主な輸出品・輸入品に関する問題では、市の平均正答率を上回っているものの57.1%と低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項と日本の工業生産を特徴づける資料を関連付けながら確認することで、日本の輸出・輸入の特色への理解を深める。</li> <li>・資料を的確に読み取る力を付けるために、複数の資料を比較したり関連付けたりして考えたことについて、まとめたり、話し合ったりする機会を設ける。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<p>どの設問においても、市の正答率を上回っている。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均正答率を4.2ポイント上回っている。</p> <p>○産業における情報活用の現状について考える問題では、市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの使い方については、今後も、社会の授業だけでなく道徳や学級活動でも指導し、情報モラルへの理解を深めていく。</li> <li>・身の回りには生活を便利にしている仕組みがたくさんあることを具体的に提示し、情報ネットワークシステムに関心をもたせることで理解を深める。</li> </ul>
日本の政治	<p>どの設問においても、市の正答率を上回っている。</p> <p>○日本国憲法や基本的人権の尊重に関する理解は高い。</p> <p>●租税の役割や議会政治についても、資料をもとに考えをまとめる問題で、市の平均値を上回っているが、正答率に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、基本的な知識については、ドリルやプリント等でくり返し確認する。</li> <li>・資料をもとに考えをまとめる問題については、キーワードを示して簡潔にまとめる練習をしていく。</li> </ul>
日本の歴史	<p>全体的にみると、市の平均正答率と同等である。</p> <p>○豊臣秀吉の政策の業績を理解する問題やその結果を考える問題の平均正答率は、参考値より高い。</p> <p>●鎌倉時代の元との戦いで防塁が築かれた場所を地図から選ぶ問題では、市の平均正答率を9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取る力を身に付けるとともに、歴史的な出来事が起きた背景やその後の影響について考えるような問題解決型の授業を展開する。</li> <li>・資料は教科書や資料集だけでなく、ICT機器や図書や実物など様々なものを提示して、児童が興味をもってそれらを比較したり関連づけたりして、自分の考えをもてるように指導していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.3	77.7	78.6
	図形	80.6	78.4	74.4
	変化と関係	53.7	58.7	53.0
	データの活用	72.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	78.6	77.5	74.0
	思考・判断・表現	64.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

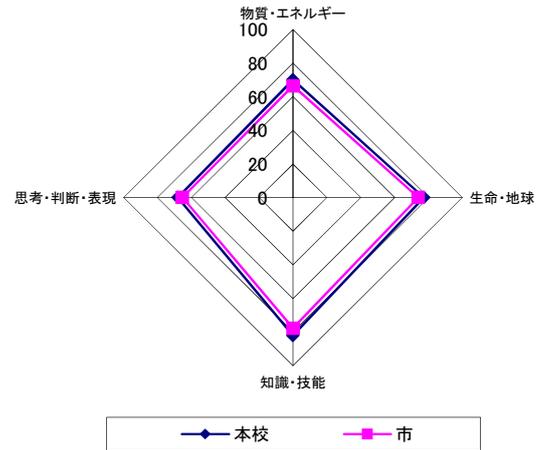
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>正答率は市と同程度だった。</p> <p>○基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題の平均正答率が市の平均より高かった。分数倍の比較量の求め方については、理解ができています。</p> <p>●真分数×真分数(約分なし)の計算、異分母分数の減法(約分なし)の計算の平均正答率は、市の平均正答率と比べると低かった。分数の基礎的な計算スキルが定着していないと考えられる。</p>	<p>・分数・小数等の基礎計算が正しくできるようするために、反復練習の機会を増やすように、授業だけでなく家庭学習においても計画的に取り組めるよう指導していく。</p> <p>・授業では、文章題のそれぞれの状況に応じて、式の意味を考えながら問題解決できるように丁寧に指導していく。</p>
図形	<p>正答率は市を上回った。</p> <p>○面積と体積、対象の図形の問題では、すべて市の平均を上回り、平均して9割程度理解できている。</p> <p>●正多角形・合同・立体の問題はすべて市の平均を下回っており、特に2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題は6割を下回った。また、市の平均は超えているものの、図に示された四角形の内角の和の求め方を説明することはあまり理解されていないと考えられる。</p>	<p>・正多角形・合同・立体の問題では、展開図の重なる点をイメージできるようにするために、導入段階で実際に三角柱などを操作し、重なる線や点をしっかり確認する必要がある。</p> <p>・図を描く学習では、実際にコンパスを使って描く回数を増やし、身につくように指導していく。</p> <p>・多角形の角の大きさの和の求め方を説明する問題では、三角形、四角形の内角の和を理解し、そして、考え方、求め方の説明は、ある程度の型を示し、そこに言葉や数、式を当てはめていく学習を取り入れていく。</p>
変化と関係	<p>正答率は市を5ポイント下回った。</p> <p>○割引後の値段を求める式を選択する問題では、正答率が市と同程度であり、百分率については理解している児童が多いが、割引された値段を求める式への理解については継続して指導が必要である。</p> <p>●基準量と比較量から、割合を求める問題の平均正答率は、市の平均正答率と比べると低かった。割合についての基本的な考え方への理解が不足していると考えられる。</p>	<p>・割引後の値段を求める問題では、線分図を使って○割や○%引きの言葉の意味を確認しながら、問題を解く習慣を身に付けていく。</p> <p>・単位量当たりの大きさについての問題では、もとにする量をそろえることで初めて比べられることを理解させたり、文章問題の場面や図を提示して、式や商の意味をその都度確認できるようにしたりして丁寧に指導していくことを継続する。</p>
データの活用	<p>正答率は多くの項目で市を上回った。</p> <p>○データの活用に関する問題のうち、全ての項目で参考値を上回っている。また、最頻値と中央値を読み取る問題以外は、市の正答率も上回っている。データの活用に関する理解度は高い。</p> <p>●最頻値と中央値を読み取る設問の正答率が、市の平均正答率と比べて低かった。基礎的知識に関する理解が不足している。</p>	<p>・授業でデータの見方について学習する際に、データの度数分布や平均値や最頻値、中心値などの言葉の意味を確認し、定着させられるよう指導していく。また、それらに着目して統計データの特徴を読み取って判断し、活用することを指導していく。</p> <p>・データ分析の仕方を、他教科の授業でも積極的に取り入れながら、考察する力を高められるよう指導していく。また、その際に自分の考えを文章にまとめる活動を繰り返し、表現力を高められるよう指導していく。</p>

# 宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	66.5	66.3
	生命・地球	77.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	81.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	68.0	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>市の正答率を上回っている。</p> <p>○電磁石を作るために用いたものの名称の問題や、実験の結果から水溶液の種類を特定する問題では、平均正答率が市の平均より高い</p> <p>●ふりこのきまりの実験の誤りを説明する問題や、メスシリンダーの使い方やろ過の操作についての問題では、平均正答率が市の平均より低い。</p>	<p>・事象や現象に興味関心を喚起するように導入や実験を工夫し、意欲を高めさせるとともに、グループ実験でも全員が器具の操作技能を習得できるような時間を確保してから実験に取り組ませるようにする。</p> <p>・実験結果の予想、結果の考察に十分時間をかけ、できるだけ記述する場面を設けることで理解を深めるとともに、表現する力を身に付けさせる。</p>
生命・地球	<p>市の正答率を上回っている。</p> <p>○台風の被害や台風が上陸しやすい時期に関する問題や、消化に関する問題では、平均正答率が市の平均より高い。</p> <p>●月の形から太陽のある方向と観察した時刻を指摘する問題では、平均正答率が市の平均より低い。</p>	<p>・生物や身近な現象や事象に実際に触れたり育てたりする活動を通して興味関心を高めるとともに、映像や写真なども用いて対象への具体的な理解を深めるようにする。</p> <p>・天体等感覚的に捉えにくい現象については、単純化したモデルや視点の置き方について繰り返し解説することにより、条件に応じた判断ができるようにする。</p>

## 宇都宮市立西原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	・中・高学年において、理科専科教員による専門性を生かした授業の展開。 ・中・高学年の算数において、少人数制の授業を実施し、確かな学力の定着を行う。	・学習内容定着度調査結果から、特に算数の変化と関係の分野の正答率が市よりも5ポイント低く、課題が見られた。少人数制の長所は一人一人の学習状況を捉え、支援しやすいことであるが、引き続き授業だけでなく、自主的に学んで行けるような意欲や学ぶことの楽しさを実感できるような授業を工夫していく。
・児童が学びの実感を得られるような単元計画の工夫、学習の展開や場の設定、思考力を育てる指導の工夫・改善	・昨年度の体育科の研究を生かし、一人一授業を様々な教科で行うことで、児童が主体的に取り組む、思考力を働かせ、学びの実感を得られるような授業の展開と場の設定について校内研修を行うことで、全職員で共通理解を図ることができた。	・学習内容定着度調査結果から、すべての教科において本校の正答率は、基礎分野・活用分野共に市の値を若干上回っていた。思考力を育て、学びを実感させる授業が、少しずつよい影響を与えていることが分かる。今後も今年度の研修を基に、引き続き校内での研修を続けていく。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎基本の徹底
- ・学びの実感を得るための授業内容の工夫
- ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習指導
- ・やる気やあきらめない気持ちを育てるための支援・学習ドリル・プリントなど現在の学年以前のものも取り入れ、家庭学習などで活用する。
- ・AIドリルや自主学習を積極的に取り入れ、個別に合った課題を児童自ら学習できるように指導・支援する。
- ・学習に対して自ら問いをもったり、答えを導くために思考力を働かせる必要のある課題を与えたりすることで、学習を自分事とし、学んだり考えたりすることの楽しさに結び付けたりする。